ラ　フォレ　セ　ラ　ヴィ　―森こそ命―

La Forêt, C'est la Vie !

ブルキナファソの中央部にあるバム県では、伝統的な蜂蜜採集にかわる現代養蜂の普及が進められています。

養蜂活動について

現在、私どもバム県環境局では、日本のNGO「緑のサヘル」と現地のNGO「AJPEE（環境畜産保全青年協会）」と共同し、ロルガ、タンギエマの両村において養蜂活動を実施しています。蜂蜜の食料品としての価値は高く、村々の経済を支える大きな力にもなります。また蜂の生産活動が、環境によい影響を与えることも良く知られています。しかし、これまでバム県では蜂蜜はとてもわずかしか採集されて来ませんでした。

ロルガ村とタンギエマ村は、バム湖という湖の近くにあります。その周辺には様々な種類の木々が残っており、土地は豊かなのですが、雨季になると湖が氾濫してしまうため、畑を作ることは出来ません。私は常々、環境を有効に利用しながら利益を上げ得る養蜂の可能性を、この両村に感じていました。しかし、これまで行なわれていた伝統的な蜂蜜採集では質・量とも多くを望めず、そのため収入も微々たるものでした。両村民とも周囲の自然を有効に活用することで、自分たちの貧しさが緩和されることを願っていましたし、伝統的なやり方ではそれが難しいことも分かっていました。ですから「緑のサヘル」にその解決を求めたのです。

今年度、「緑のサヘル」の支援によって活動が始まり、研修や蜂箱の設置、維持管理がAJPEEと環境局の指導の下で行なわれました。今では多くの村人が、蜂蜜が栄養面や経済面に大きな利点を持っていることをよく理解しており、積極的にこの活動に関わっています。また、彼らはこの取り組みを通して、バム湖周辺の植生の保護や植林など、環境保全活動に対する意識を持つようになりました。「緑のサヘル」には心から感謝の意を表したいと思います。

バム県環境局／森林技官　ウエドラオゴ　ジョアニ